

阿南市国語研究会のあゆみ

1 本市の状況

小学校22校，各校国語主任と研究部員合わせて40名である。県と同一研究主題で，国語科教育の実践に取り組んでいる。今年度は，特に「学習過程の明確化」と「言語活動の充実」に重点をおき，学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた国語科学習が展開できるよう研修を重ねている。

2 組織

係校長	小倉 泰夫 (横見小)	里見 光亮 (岩脇小)
係教頭	村部 幸子 (新野小)	
会長	古森 敦子 (羽ノ浦小)	
副会長	鈴鹿 真理子 (平島小)	久積 富美子 (見能林小)
会計	濱川 美智子 (岩脇小)	

3 研究経過

- (1) 主体的・自覚的にことばを学ぶ子どもが育つ国語科授業の創造
「読むこと」を基盤に，知識・技能の習得と活用する力の育成を図る学習指導

(2) 研究内容

阿南市小学校教育研究集会

[日時] 4月16日(木) 13:00～17:00

[場所] 富岡小学校

[内容] 本年度研究組織作りと研究主題及び研修計画作成

授業研究会

[日時] 11月5日(木) 13:50～16:30

[場所] 平島小学校

[内容] 研究授業

授業者	6年 野々宮 勢子教諭
单元名	記事を推敲しよう
指導助言	鳴門教育大学 村井万里子教授

研究協議内容

(1) N1E教育について

- ・N1E教育に取り組み，5W1Hがきちんと書けるようになり段落作りが上手になった。また，最後の一文は見出しと通じるものがよいことも理解できた。

- ・新聞作りを積み重ねたために、文章を書くときには表記の間違いも少なくなり、言葉を選び進んで表現しようとする児童が増えてきた。
- ・指導者の助言なしで新聞を仕上げられる児童が多くなり、書く力が身についてきた。
- ・総合的な学習の時間と関連させながら進めていったために体験が大きな力となり、書く意欲へとつながっていった。
- ・新聞社に連絡すれば、学校の規模に関係なく手続き（NIE）ができる。

(2) 推敲について

- ・推敲の意味は、よりよく直すことなので学習課題は「記事を推敲しよう」ではなく「記事をほめあおう」の方がよかったのではないか。
- ・授業の中で推敲の場面があればよかった。
- ・推敲前と推敲後の作品は言語の成長を気づかせるためにも残しておくことが大切である。
指導，助言
- ・二百字作文で書く力をつけたことは素晴らしい。
- ・字数を決めることで考える力がつく。
- ・低学年では作文を書くのが好きな児童が多いのに、学年が進むにつれて嫌いになっていく。そういう児童には、書くことの良さを認識させる。
- ・作文を書けない児童には、書けないことを題材に書かせてみる。書くことでなぜ書けないのが分かってくるので。
- ・書くことが苦手な児童には、視写をさせてみてもよい。
- ・人と関わる中で子どもは育つ。狭い技術の中に閉じこめないで人間性を育てることが国語教育の特徴である。
- ・大きな声で発表ができるようにするには、声を出す必然性を持たせる。児童に自信を持たせることが大切である。

第24回四国国語教育研究大会・第32回徳島県小学校国語教育研究大会

提案発表者 椿小学校 沼佐 温子教諭

— 「読み」の世界を広げ、生き生きとことばを学び、表現できる子どもを目指して —

本年度研究のまとめと反省（2月）

4 今年度の成果と今後の課題

11月の授業研究会では、鳴門教育大学の村井万里子教授をお迎えして、密度の濃い研修を行うことができた。会員の先生方の熱心な研究協議により国語科学習の視点を考えるよい機会となった。今後は、平成23年度からの新教育課程の完全実施に向けて、各校が国語科のねらいを明確にし、児童が興味を持って主体的に学習しながら確かな国語の力が身につくよう実践を重ねていきたい。

（羽ノ浦小学校教諭 古森 敦子 記）